

第7回全国高等学校情報教育研究会全国大会（埼玉大会）報告

埼玉県立川越南高等学校 教諭 春日井 優

1 はじめに

第7回全国高等学校情報教育研究会全国大会（埼玉大会）が、東洋大学川越キャンパスを会場に平成26年8月12日（火）、13日（水）の2日間で開催された。今大会には295名の高校教員、大学教員、教育行政関係者、企業関係者、学生の参加があった。開催日がお盆行事の時期と重なったことにより、前年度の京都大会の参加者320名から減少したと見られた。

新学習指導要領で設置された科目「社会と情報」および「情報の科学」の実施から1年が経過し新たな実践が期待されること、タブレットなどの新たな情報機器の普及により情報教育の変化が期待されることから、大会テーマを「未来を創る情報教育～新しいメディアへアプローチ～」とし、情報化の影の部分も光に変える力強さを持った情報教育の展開を目指すものとした。

2 大会概要

- 【テーマ】 未来を創る情報教育
～新しいメディアへアプローチ～
- 【日時】 平成26年8月12日（火）13:00～
8月13日（水）15:30
- 【会場】 東洋大学 川越キャンパス
- 【主催】 全国高等学校情報教育研究会
- 【共催】 埼玉県高等学校情報教育研究会
- 【後援】 文部科学省、埼玉県教育委員会、
全国専門学科「情報科」高等学校長会
日本情報科教育学会、
日本教育公務員弘済会埼玉支部
- 【協賛】 全国高等学校情報教育研究会加盟の研究会・部会



西山大会実行委員長 挨拶

【プログラム】

- 開会行事
- 基調講演
「輝く未来を創るセルフ・イノベーション」
株式会社リアルディア代表取締役社長
元アップル米国本社副社長兼
日本法人代表取締役 前刀禎明氏
ライトニングトーク
- ポスターセッション・協賛展示
- 教育懇談会
- 分科会・若手分科会
- 講評・講演
文部科学省初等中等教育局
視学官 永井克昇氏
- 閉会行事

3 大会の様子

（1）基調講演

『輝く未来を創るセルフ・イノベーション』という講演題で、前刀禎明氏の講演が行われた。

主な内容は次のようなものであった。企業が求めている人材は自律型社員・困難に打ち勝つ人材であること。「感じる」「創る」「動かす」といった多重知性が求められ、「期待超越度」や「価値の再定義」により、未来予測ではなく未来創造が重要であること。自信を持つためにはロジカルシンキングが重要であること。思考停止にならず、素直な感性を持ち創造的知性が必要とされること。そのためには、正解を求めず、感じ、変化を見逃さない洞察力を持つこと。

「変わらないを変えよう」という言葉が印象的であった。



基調講演（前刀禎明氏）

(2) ライトニングトーク

前回大会に引き続き、ライトニングトークが行われた。このライトニングトークはIT系のセミナー等で広く行われている。内容は、3分間で2日目に行われる分科会発表の紹介が行われた。また、今回と次回の開催県である埼玉県・宮崎県の紹介も行われ、計17人による発表が行われた。

機器の接続のトラブルやライトニングトークに参加する経緯なども交えながら、ライブ感覚での発表が参加者にも好評であった。



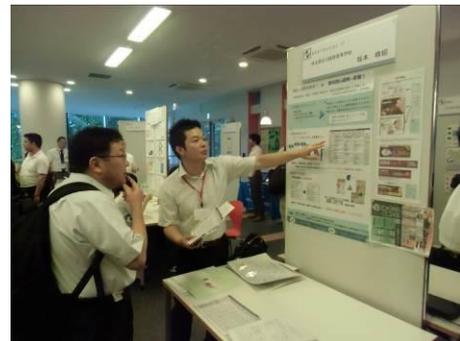
ライトニングトーク

表1 ポスターセッション発表

1) ワークショップの紹介	千葉県立八千代東高等学校	谷川佳隆
2) 知財教育の高大連携	三重県立津商業高等学校/三重大学	世良清
3) レトロPCは情報教育の夢をみるか	神奈川県立鎌倉高等学校	柏木隆良
4) 情報モラルに関する映像教材と、その活用例	千葉県立成田北高等学校	浅見智峰
5) 情報モラル絵本のテーマ変遷について	大阪府立寝屋川高等学校	野部緑
6) コミュニケーション力を育てる情報科の授業	聖母被昇天学院中学校高等学校	岡本弘之
7) データで見る高校生のコンピュータ活用 ～10年間の変遷	東京都立町田高等学校	小原格
8) 協働学習システムを作成してみました。	沖縄県立石川高等学校	渡慶次順太
9) 3次元コンピュータグラフィックスの基礎・基本を学ぶ 教材の利用と課題 - Python Computer Graphics Kit-	東京都立つばさ総合高等学校	横枕雄一郎
10) 仮想化ソフトウェアによる個人サーバを利用した授業の 提案	千葉県立柏の葉高等学校	沼崎拓也
11) 「二軸法図解を用いた情報の整理と分析」の授業実践報告	茨城県立東海高等学校	阿南統久
12) 基礎情報学の定着を測る定期考査	基礎情報学研究会・高校教員チーム 京都市立西京高等学校 青森県立黒石高等学校 埼玉県立大宮武蔵野高等学校	藤岡健史 下村誠 中島聡
13) 大学情報入試全国模擬試験	情報入試研究会	中野由章
14) Windows RTでデスクトップアプリを使うための処理シ ステム	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	川原大輝
15) 教職課程の学生によるICT教材作成の実践報告と効果	電気通信大学教職課程支援室	金子麦 赤澤紀子
16) タブレットが可能にしたことと、次なる活用法について	大阪成蹊女子高等学校	宇野美和
17) 消費者教育を『情報』の授業で実践する。 - 教科の連携を意識した授業とは-	埼玉県立川越西高等学校	坂本峰紹
18) 情報活用の実践力を養うコミュニケーションワーク教材	大阪府立東百舌鳥高等学校	勝田浩次
19) Microsoft OneDriveを活用した教材の共有と提示	石川県立金沢向陽高等学校	林道雄

(3) ポスターセッション

ポスターセッションでは全19本の発表が行われた。本県からは、「基礎情報学の定着を測る定期考査」について埼玉県立大宮武蔵野高等学校の中島聡先生（基礎情報学研究会・高校教員チームとして京都市立西京高等学校の藤岡健史先生・青森県立黒石高等学校の下村誠先生との連名での発表）と「消費者教育を『情報』の授業で実践する。- 教科の連携を意識した授業とは-」について埼玉県立川越西高等学校の坂本峰紹先生の2件の発表があった。



ポスターセッション

表2 分科会発表

第1分科会【問題解決】		
1) 教科「情報」での進路学習	東洋大学附属牛久高等学校	篠田剛史
2) 図書室を利用したデータベース学習	大阪府立寝屋川高等学校	野部緑
3) iBooks Authorを使って研究旅行の学びを電子書籍化する	和光学園和光高等学校	小池則行
4) コミュニケーション能力を養う「情報」	大阪府立柴島高等学校	坪内誠道
5) 自給自足の情報モラル教育（問題解決型情報モラル指導）	神奈川県立川崎高等学校	鎌田高德
6) 「グループで行う問題解決」実践報告	東京都立町田高等学校	小原格
7) 「水の分配」教材を使った問題解決学習の授業実践	大阪府立東百舌鳥高等学校	稲川孝司
8) 簡易な統計グラフポスターの制作を通じた問題解決の指導	千葉県立柏の葉高等学校	滑川敬章
第2分科会【教材の紹介】【教材の開発】		
1) 情報の科学、やりませんか？	東京都立立川高等学校	佐藤義弘
2) シミュレーション、今更ながらモンテカルロ法 (1次元～4次元球まで)	千葉県立船橋東高等学校	泉水清和
3) 10年目のHTML	仙台市立仙台青陵中等教育学校	上杉茂樹
4) ユーザインタフェースからの展開	山口県立岩国高等学校	山下裕司
5) ブレッドボードとICを使った簡易教材で学ぶ論理回路の仕組み	東京都立三鷹中等教育学校	能城茂雄
6) 学校設定科目DTMにおける指導の実際と可能性	沖縄県立嘉手納高等学校	長堂忠司
7) 協調的な学びを促進するタブレットPC向けデジタル教材の開発	東京学芸大学附属高等学校	森棟隆一
第3分科会【実践と提案】		
1) 情報を批判的に読み解き、自分の考えを再構築する学習の方策を探る	鳥取県立鳥取工業高等学校	中林正樹
2) 学習意欲を高める教材により、思考力、判断力、表現力の育成	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	三井栄慶
3) アクティブラーニングに向けた高校の実践からの提案	帝京大学大学院教職研究科	荒巻恵子
4) 横浜サイエンスフロンティア高校の実践からの提案	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	佐野和夫
5) 基礎情報学で情報教育を刷新する - SGHアソシエイト校での実践から -	京都市立西京高等学校	藤岡健史
6) 「情報」を大学受験教科にするために高校側ができること	愛知県瀬戸北総合高等学校	田中健
7) 知的教育の高大連携	三重県立津商業高等学校/三重大学	世良清
8) 高大の教員で共に作り上げる高大連携授業	大阪成蹊女子高等学校	宇野美和
第4分科会【実践事例】【問題解決】		
1) 平成26年度情報科導入テスト実施報告	横須賀市立横須賀総合高等学校	石井徳人
2) 「社会と情報」の授業を変えよう	大阪府立りんくう翔南高等学校	千葉緑
3) プレゼンテーションとWebサイト作成の指導例	千葉県立八千代東高等学校	谷川佳隆
4) 1時間でできる情報モラル教育	東京都立石神井高等学校	小松一智
5) 不適切な投稿問題からの情報モラル授業	聖母被昇天学院中学校高等学校	岡本弘之
6) LINE等のソーシャルメディアに関する指導について	埼玉県立草加高等学校	鶴見美子
7) ネットを賢く使おう！！高校生の取り組み	羽衣学園高等学校	米田謙三
8) モラルジレンマを活用した著作権教育の実践	東京都立江北高等学校	稲垣俊介

表3 若手分科会発表

1) コミュニケーションを意識した教科「情報」の授業実践	神奈川県立津久井高等学校	大里有哉
2) コミュニケーションを重視した情報モラルの授業	大阪府立東百舌鳥高等学校	勝田浩次
3) 2進数の指導について	千葉県立犢橋高等学校	有村一成
4) 2学期授業の取り組み『情報の収集から発信まで』について	埼玉県立蓮田松韻高等学校	安倍孝司
5) Evernoteを用いた授業の実践	千葉県立袖ヶ浦高等学校	眞山和姫
6) 情報Aから「社会と情報」へ - これまでの実践記録とこれからの展望 -	大阪府立三島高等学校	勝山衿佳
7) ジグソー法を用いた授業実践例の紹介	茨城県立波崎高等学校	茂木孝允
8) レポートのアクティブラーニング実践	東京都立成瀬高等学校	池尻啓輔
9) 発表を評価するには	神奈川県立大師高等学校	安齋嶺
10) 相互評価と意見交換による科学的素養育成の実践	埼玉県立不動岡高等学校	坪井啓明

参加者数に対して、若干狭い会場であったが、発表者の熱気が感じられる発表であった。実物の展示、授業を模した発表など、さまざまな工夫がされている発表であった。また、高校生による発表があり、今後の情報教育に期待ができるものとなった。

同じ時間帯で協賛企業による展示も行われ、教材や授業環境を検討する上で、参考となるものであった。

(4) 分科会

「問題解決」、「教材の紹介・教材の開発」、「実践と提案」、「実践事例・情報モラル」の4分科会に分かれて発表が行われ、計31件の発表があった。本県からは、埼玉県高等学校情報教育研究会の研究委員会を代表して埼玉県立草加高等学校の鶴見美子先生から「LINE等のソーシャルメディアに関する指導について」の発表があった。

前回大会までは、午前中にすべての発表が終わる日程であったが、今回の大会では午後にも発表時間が設けられたことにより、最大8本の発表に参加できるようになった。

『情報の科学』を選択している学校の比率が低いにも関わらず、情報の科学的な理解に関連する発表にも参加者が多く集まっていたことが意外な感じであったが、『情報の科学』の実施比率以上に教科の指導についての関心を持たれていることがうかがえた。



分科会発表

(5) 若手分科会

関東近郊の埼玉・東京・神奈川・千葉・茨城と情報科採用数が多い大阪の研究会・部会や教育センターから推薦された10名の情報科採用の先生方に登壇していただき、日頃の実践の成果の発表が行われた。本県からは、埼玉県立総合教育センターの甲山貴之先生に御尽力いただき、2名の情報科採用の先生を紹介していただいた。埼玉県立蓮田松韻高等学校の安倍孝司先生には「2学期授業の取り組み『情報の収集から発信まで』について」、埼玉県立不動岡高等学校の坪井啓明先生には「相互評価と意見交換による科学的要素育成の実践」の発表をしていただいた。

参加者の関心も高く、発表を聞く参加者数は他の分科会と遜色が無い人数が集まった。また、発表内容には先進的な取り組みの発表も多く、今後の情報科の発展に期待が持てるものであった。



若手分科会

(6) 講評・講演

大会最後に講評・講演として永井視学官から2日間の講評と「本気で取り組む情報教育～正しい理解と適切な実施」という演題での講演をいただいた。

特に永井視学官は若手分科会に高い関心をお持ちで、多くの時間を若手分科会の講評に充てられた。教員としての採用年数が短いうちに、共通教科情報科の適切な実施に向けた指導を目指してほしいとの講評をされた。

また、次期学習指導要領の編成に向けた中央教育審議会のタイムスケジュールを示され、情報科の実践をさらに積み上げるにより現場から情報科の重要性を示すことも求められた。



講評・講演（永井克昇視学官）

4 実行委員会のあゆみ

今回の大会の実現に向けてだけではなく、前回の京都大会から2大会続けて、多くの埼玉県の先生方には実行委員として多大なる御尽力をいただいた。その実行委員会について記録として掲載したい。

〔第6回京都大会実行委員会〕

平成24年 8月16日 会場下見（施設見学会）
（於：東洋大学）

平成24年10月 6日 係分担について
(於：都立白鷗高校)

7月25日 大会直前の確認について
(於：県立大宮高校)

12月22日 大会方針について
(於：都立白鷗高校)

8月 9日 当日準備
(於：京都大学)

平成25年 4月14日 準備の進捗について
(於：都立石神井高校)

上記6回の実行委員会以外に、研究委員会などに合わせて非公式の実行委員会が行われた。また、メーリングリスト上に於いて1000通を超えるメールによる議論が行われた。

6月16日 準備の進捗について
(於：県立大宮高校)

表4 第6回京都大会実行委員

大会実行委員長 本部	◎能城茂雄 (東京都立三鷹中等教育学校) ◎能城茂雄 (東京都立三鷹中等教育学校) 羽賀康博 (東京都立東村山高等学校) 春日井優 (埼玉県立朝霞高等学校)	藤岡健史 (京都市立西京高等学校) 滑川敬章 (千葉県立柏の葉高等学校) 齋藤実 (埼玉県立大宮高等学校)
予算会計	◎齋藤実 (埼玉県立大宮高等学校) 細沼智之 (埼玉県立鷲宮高等学校) 野中寿英 (茨城県立江戸崎総合高等学校)	小松一智 (東京都立石神井高等学校) 山下優子 (茨城県立)
会場関係	◎柳澤実 (埼玉県立妻沼高等学校) 小原格 (東京都立町田高等学校)	曾田正彦 (埼玉県立川越西高等学校)
研究発表 (分科会)	◎長谷川万希子 (埼玉県立朝霞西高等学校) 大谷光 (埼玉県立庄和高等学校)	石井政人 (埼玉県立越ヶ谷高等学校)
ポスターセッション 広報	◎柳澤実 (埼玉県立妻沼高等学校) ◎春日井優 (埼玉県立朝霞高等学校) 田中健 (愛知県立安城南高等学校)	沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校) 石井政人 (埼玉県立越ヶ谷高等学校)
協賛	◎鹿野利春 (石川県立金沢二水高等学校) 細沼智之 (埼玉県立鷲宮高等学校)	曾田正彦 (埼玉県立川越西高等学校) 小松一智 (東京都立石神井高等学校)
冊子作成	◎田中洋 (東京都立白鷗高等学校) 石井政人 (埼玉県立越ヶ谷高等学校)	長谷川万希子 (埼玉県立朝霞西高等学校)
受付計画 当日受付	◎大谷光 (埼玉県立庄和高等学校) ◎大谷光 (埼玉県立庄和高等学校) 野部緑 (大阪府立寝屋川高等学校)	沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校) 沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校) 大波多知佳子 (大阪府立西寝屋川高等学校)
当日の大阪府教員配置	◎稲川孝司 (大阪府立東百舌鳥高等学校)	

表5 第7回埼玉大会実行委員

大会実行委員長	◎西山茂 (埼玉県立朝霞西高等学校 校長)	
大会事務局	◎春日井優 (埼玉県立川越南高等学校) 齋藤実 (埼玉県立大宮高等学校) 村上啓一 (宮崎県立都城西高等学校) 滑川敬章 (千葉県立柏の葉高等学校) 羽賀康博 (東京都立東村山高等学校)	能城茂雄 (東京都立三鷹中等教育学校) 五十嵐誠 (神奈川県立神奈川総合高等学校) 池尻啓輔 (東京都立成瀬高等学校) 小松一智 (東京都立石神井高等学校)
予算会計	◎齋藤実 (埼玉県立大宮高等学校) 細沼智之 (埼玉県立鷲宮高等学校)	小松一智 (東京都立石神井高等学校)
研究発表 (分科会)	◎沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校) 長谷川万希子 (埼玉県立朝霞西高等学校)	大谷光 (埼玉県立庄和高等学校) 鶴見美子 (埼玉県立草加高等学校)
ライトニングトーク ポスターセッション	三井栄慶 (神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校) ◎柳澤実 (埼玉県立妻沼高等学校) 栗原香菜子 (埼玉県立北本高等学校)	沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校)
広報	◎春日井優 (埼玉県立川越南高等学校) 田中健 (愛知県立瀬戸北総合高等学校)	石井政人 (埼玉県立越ヶ谷高等学校)
協賛	◎細沼智之 (埼玉県立鷲宮高等学校)	小松一智 (東京都立石神井高等学校)
冊子作成	◎長谷川万希子 (埼玉県立朝霞西高等学校) 石井政人 (埼玉県立越ヶ谷高等学校)	田中洋 (東京都立白鷗高等学校)
受付	◎大谷光 (埼玉県立庄和高等学校) 五十嵐誠 (神奈川県立神奈川総合高等学校)	沖田敦志 (埼玉県立所沢西高等学校) 野部緑 (大阪府立寝屋川高等学校)
司会進行	◎長谷川万希子 (埼玉県立朝霞西高等学校) 伊藤剛志 (埼玉県立川口高等学校)	鶴見美子 (埼玉県立草加高等学校) 齋藤実 (埼玉県立大宮高等学校)
懇親会・二次会	◎大谷光 (埼玉県立庄和高等学校)	五十嵐誠 (神奈川県立神奈川総合高等学校)

[第7回埼玉大会実行委員会]

- 平成25年11月24日 前年度反省・係分担について
(於：県立朝霞高校)
- 12月26日 大会方針について
(於：県立大宮高校)
- 平成26年 1月25日 大会準備について
(於：県立大宮高校)
- 3月28日 準備の進捗について
(於：都立白鷗高校)
- 5月11日 準備の進捗について
(於：都立白鷗高校)
- 6月21日 準備の進捗について
(於：都立白鷗高校)
- 8月11日 前日準備
(於：東洋大学)

上記8回の実行委員会以外に、研究委員会などに合わせて非公式の実行委員会や会場下見が行われた。また、メーリングリスト上に於いて800通を超えるメールによる議論が行われた。

埼玉大会であるにも関わらず、県内の横方向の交通が不便であることにより東京都立白鷗高等学校の田中洋先生には何度も会場を提供していただき、埼玉県以外の都県からも多くの先生方に実行委員として大会の計画立案から準備、運営に至るまで多方面に渡って御協力いただいたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。2年続けて全国大会の実行委員として大会全般にわたって支えてくださった実行委員の皆さまには厚く御礼申し上げます。

5 おわりに

次回の全国大会は、平成27年8月10日(月)11日(火)に宮崎公立大学で行われる予定である。皆さまには御参加いただき、宮崎大会を成功に導いていただけると幸いです。

最後に、この場をお借りして、今大会が成功したことを参加者および関係者の皆さまに御礼申し上げます。